21世纪大学日语专业系列教材

6

新编日语听解

教与学参考书

主　　编　陈俊英
审　　订　[日]谷守正宽　陈多友
分册主编　张永平

中国宇航出版社

21世纪大学日语专业系列教材

新编日语听解

教与学参考书

6

主　　编　陈俊英

审　　订　[日] 谷守正宽　陈多友

分册主编　张永平

审　　阅　[日] 西山尚志　[日] 种村由季子

·北京·

版权所有 侵权必究

图书在版编目（CIP）数据

新编日语听解教与学参考书. 6 / 陈俊英主编 ; 张永平分册主编. -- 北京 : 中国宇航出版社, 2014.1
21世纪大学日语专业系列教材
ISBN 978-7-5159-0625-6

Ⅰ. ①新… Ⅱ. ①陈… ②张… Ⅲ. ①日语一听说教学一高等学校一教学参考资料 Ⅳ. ①H369.9

中国版本图书馆CIP数据核字(2014)第017225号

策划编辑 于 慧　　装帧设计 宇航数码
责任编辑 刘 莹 赵 天　　责任校对 王 雪

出版发行 中国宇航出版社
社址 北京市阜成路8号　　邮编 100830
（010）68768548
网址 www.caphbook.com
经销 新华书店
发行部 （010）68371900　（010）88530478（传真）
（010）68768541　（010）68767294（传真）
零售店 读者服务部　北京宇航文苑
（010）68371105　（010）62529336
承印 北京京华虎彩印刷有限公司
版次 2014年1月第1版　2014年1月第1次印刷
规格 787 x 1092　开本 1/16
印张 13.75　字数 260千字
书号 ISBN 978-7-5159-0625-6
定价 39.80元

本书如有印装质量问题，可与发行部联系调换

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

21世纪大学日语专业系列教材

主　　编　陈俊英　（湛江师范学院）

副 主 编　李国宁　（湛江师范学院）

孙淑华　（青岛理工大学）

王　磊　（河南师范大学）

张永平　（山东政法学院）

审　　订　[日]谷守正宽　（日本甲南大学）

陈多友　（广东外语外贸大学）

编辑委员会　（以姓氏汉语拼音为序）

陈俊英　（湛江师范学院）

程国庆　（青岛大学）

洪伟民　（上海商学院）

司志武　（暨南大学）

王传礼　（韩山师范学院）

王　磊　（河南师范大学）

王玉芝　（河北师范大学）

徐永祥　（唐山师范学院）

于卫红　（内蒙古大学）

张继彤　（上海理工大学）

张金艳　（内蒙古师范大学）

张永平　（山东政法学院）

郑爱军　（青岛理工大学）

总　序

随着全球化时代的到来和我国与日本合作、交流领域的不断扩大，社会对复合型、实用型日语专门人才的需求逐年增加。为适应这种需要，近年来，我国设置日语专业的大学也在迅速增加，根据中国日语教学研究会2011年公布的信息，全国已有466所大学设立了日语专业。

然而，从教学实践来看，适用于培养社会所需的复合型、实用型日语人才的教材却不多见。为此，部分普通大学日语专业骨干教师萌发了合作编写一套实用型日语教材的想法。经过前期精心筹划和准备，以2010年初在湛江师范学院举办的“大学日语专业教学暨实用型教材建设研讨会”为契机，正式启动了本系列教材的编写工作。

一、本系列教材编写依据、原则和使用对象

本系列教材以教育部《高等院校日语专业基础阶段教学大纲》和《高等院校日语专业高年级阶段教学大纲》（以下简称教学大纲）为指导，并参考了《高校日语专业四级考试大纲》和《高校日语专业八级考试大纲》以及日本国际交流基金等编《日本語能力試験出題基準》《新しい「日本語能力試験」ガイドブック概要版と問題例集N1，N2，N3》《新しい「日本語能力試験」ガイドブック概要版と問題例集N4，N5》等相关日语资格考试文献资料。

本系列教材以“学生好学，教师好教，贴近生活，注重实用”为编写原则，旨在帮助学生锤炼日语基本功，激发学习兴趣，学会学习；培养综合素质、实践能力、社会文化理解能力和跨文化交际能力；培养取得日语能力考试、专业四、八级考试等国际、国内日语资格证书的能力。

本系列教材主要适用于大学日语专业学生。根据学习或取得日语资格证书的需要，零起点或有一定学习基础的日语爱好者也可以从中任意选用。

二、本系列教材编写中的技术处理

为达到本系列教材的编写初衷，在编写时做了如下技术层面的处理：

在语法层面上，根据教学大纲要求和取得日语资格证书需要，将语法按日语能力考试N5～N1和专业四、八级考试水平由低到高分为1～7级，并分别编入相对应的各册。为此，第1～5册分别相当于日语能力考试N5～N1水平，而前4册又相当于专业四级考试水平；第6～7册继续锤炼日语基本功，提高实践能力，充实文化知识，相当于专业八级考试水平。

在内容层面上，对各册的选材范围、主题、难易梯度等进行了整体设计和安排。例如，第1～2册主要涉及日本日常生活常识、基本礼仪习惯和学习方法等话题；第3～4册主要涉及日本社会、文化、商务礼仪、环保等话题。

三、本系列教材的构成和使用

本系列教材涵盖日语专业4门必修课程，包括《新编综合日语》《新编日语听解》《新编日语会话》和《新编日语读解》。《新编综合日语》为系列教材的核心和主线，其余分册既是《新编综合日语》的补充、内伸外延，又分别承担不同的任务，各具特色。简言之，分则独立，合则系统。

本系列教材中的《新编综合日语》和《新编日语听解》各为7册，均配有教与学参考书、音频文件，适用于1～7学期；《新编日语会话》为4册，配有音频文件，适用于1～4学期；《新编日语读解》为4册，适用于3～6学期。

四、本系列教材的特点

1．吸纳优秀教材所长，链接社会实际需求，重视学生综合素质和“即战力”的培养。

2．引导学生学会学习，学会做人，学会做事，学会认知，提高人文素质。

3．反映国际、国内日语资格证书考试要求和水平，把学习和获取考试证书相结合。

4．提供立体化教学资源包：教学PPT、网络资源和互动博客等。

本系列日语教材的问世，是集体智慧和通力协作的结晶。有湛江师范学院、上海理工大学、青岛理工大学、上海商学院、河南师范大学等十几所大学日语教师、同学和日本外教的辛劳和汗水；有日本鸟取大学、新潟大学等几所大学日语教育专家以及几位媒体资深记者的鼎力相助；有北京大学、北京师范大学、北京外国语大学、广东外语外贸大学等诸位专家在百忙中的热情支持；有著名外资企业高管提供的宝贵素材和相关建议；同时还从现有多种优质教材中吸收了大量养分。

中国宇航出版社作为国家级品牌出版社，积极投身于我国外语教学事业，对本系列教材的出版给予了热情帮助和大力支持，并将其列为出版社“十二五”规划教材。在此，谨对以各种方式关心、帮助、支持本系列教材出版的国内外各位学者、专家、同仁和同学们一并表示深深的敬意和谢意。

由于编者水平有限，经验不足，加之时间仓促，本系列教材难免会有不少疏漏和不尽如人意之处，恳请各位专家、同仁和同学们多多提出宝贵意见。

《21世纪大学日语专业系列教材》编写委员会

2011年7月

前 言

《新编日语听解教与学参考书》是《21世纪大学日语专业系列教材》主干教材《新编日语听解》配套教与学参考用书，共7册，分别与《新编日语听解》7册中的各册一一对应。它作为《新编日语听解》辅助教材，根据教师和学生双方的需要而编写，适合于教师教学和学生学习使用。

本册是《新编日语听解教与学参考书》第6册，是在《21世纪大学日语专业系列教材》编写组多次集体讨论的基础上，由山东政法学院编写完成的。

本册为《新编日语听解》第6册的配套用书，适合大学日语专业第6学期使用。本书内容包括《新编日语听解》第6册相应各课的录音原文和答案等，共15课，每课的教学时间为2学时。选材涉及采访、演讲、对话、致辞、民间故事，内容包括日本社会、文化、生活、政治、经济等多个方面，生动有趣、形式多样、内容新颖、循序渐进。

本册由张永平总体设计，并独立统稿、定稿、编写课文及单词索引，完成全书的编写工作。感谢西山尚志老师、种村由季子老师在审定和资料查找方面给予的大力协助。选材中使用了日本各领域专家学者的材料，在此一并表示感谢。由于时间仓促、水平有限，编写过程中难免会有欠缺或纰漏之处，希望各位专家、同仁和同学批评指正。

编者

2013年12月

目　录

1	第 1 課　著者インタビュー・荒川洋平さん
15	第 2 課　文字文献とコンピューターの橋渡し
29	第 3 課　TPP の解き方について
44	第 4 課　これからの進路について
56	第 5 課　沸騰都市・東京モンスター
72	第 6 課　村上春樹エルサレム賞スピーチ
85	第 7 課　仕事中心主義の弊害と生きがい
99	第 8 課　生活の質の向上を目指して
114	第 9 課　速水健次郎一家の諸問題
128	第 10 課　窓際のトットちゃん
143	第 11 課　言葉とそれ以外の要素
157	第 12 課　現在を生きる若者たちの現状
171	第 13 課　日本昔話
184	第 14 課　エネルギー産業の明日
196	第 15 課　卒業式・学長告辞

第1課　著者インタビュー・荒川洋平さん

背景知識

CDを聞く前に，読んでおきましょう。

1．荒川 洋平

1961年生まれ。立教大学仏文科卒業。ニューヨーク大学教育学大学院修了。デューク大学助手，国際交流基金日本語国際センター専任講師を経て，現在，東京外国語大学准教授（留学生日本語教育センター）。専門はメタファー研究を中心とした認知言語学。著書に『もしも…あなたが外国人に「日本語を教える」としたら』『こぐまのお助けハンドブック—悩める日本語教師たちに贈る』『日本語教師のための応用認知言語学』『日本語という外国語』（講談社）など。

2．著書『とりあえず日本語で』

これからの日本は，外国人が今よりもさらに増えていくことが予想され，日本語学習者も確実に増えていくはずです。つまり私たちは外国人と日本語で話す機会が増えていくことになります。しかし，実際外国人と日本語で話すとき，どのような話し方，接し方をしたらいいのか不安に思う人も少なくないでしょう。この本では外国人と日本語でやりとりすることを，さらに外国人どうしが日本語でやりとりすることを「対外日本語コミュニケーション」と名づけ，様々なシーンで実際に起こりうる例をもとに考察し，問題点や解決法を探っていきます。

一、単語

チャレンジ	挑戦。
題名（だいめい）	書物・詩文などの標題。
制限（せいげん）	限界・範囲を定めること。また，その限界・範囲。
異常（いじょう）	通常とはちがっていること。並外れたところのあるさま。好ましくない意を込めて使うことが多い。
観点（かんてん）	観察・考察するときの立場や目の付けどころ。見方。見地。
視点（してん）	視線の注がれるところ。また，ものを見る立場。観点。
限界（げんかい）	物事の，これ以上はないというぎりぎりのさかい。かぎり。
過度（かど）	度をすごすこと。程度をこえていること。
スタンス	事にあたる姿勢。立場。
境界（きょうかい）	さかい。区域。
勇気（ゆうき）	いさましい意気。物に恐れない気概。
津々浦々（つつうらうら）	あまねく全国。国中いたる所。
メンタル	心的。精神的。
ショック	予期しないことに出会ったときの心の動揺。心理的衝撃。
取り決め（とりきめ）	話し合って決めること。また，とりきめた事柄。約束。
ポリシー	政策。政略。方針。
トレーニング	訓練。練習。鍛錬。
プレゼンテーション	自分の意見や考え・企画を，資料を用いながら集会や会議などにおいて提案・説明すること。プレゼン。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

二、文法

CDを聞く前に，必要な文法の意味を確認しておきましょう。

1．～（よ）うとする

「～（よ）うとする」は，何かの動作をしようと試みるという意味で，否定の形は「～（よ）うとはしない」です。そして，「～（よ）うとするとき/～（よ）うとしたところ」のように，時の表現と結びついた場合は，動作が始まる直前の状態を表します。

例文：

（1）僕が出かけようとしたら，電話がかかってきた。

（2）社長，みんなでそば屋にでも行こうかと思っているんですが，ご一緒にいかがですか？

2．～がちだ

「～がちだ」は，「～する傾向がある」「よく＜回数＞～する」という意味を表す表現で，よく，好ましくない事に対して用いられます。

例文：

（1）この種の間違いは，初心者にありがちなことだ。

（2）この子は小ださい頃から病気がちで，しょっちゅう医者通いをしていました。

三、話題/議論

CDを聞く前に，次のトピックスについて話し合いましょう。

1．あなたは日本人の友達がいますか。どんな友達ですか。

2．日本人の友達と話をするとき，日本語で話しますか。それとも中国語で話しますか。また，どちらがよいと思いますか。

正　解

略

四、本文の聴解1　：大枠の聞き取り

内容を大まかに理解しましょう。CDを聞いて，次の質問に答えてください。

記者：率直な質問ですが，荒川先生がこの本で一番伝えたかったことはなんですか？

荒川：題名の通り，「日本語で話しましょう」ということですね。あとは，何回か出てくるんですけれども，外国人が日本語を学んでいるのではなくて，学んでくれている。これはありがたいことで，感謝すべきなのに，差別であるとか逃げるとか，そういう態度で接するのは，まっとうじゃないんじゃないかなということですね。

記者：相手は一生懸命勉強して，できれば日本の人たちとたくさん日本語でしゃべって上手になりたいと思っているのに，こちらは一生懸命英語でしゃべろうとして，相手が思っていることがしゃべれないのは，失礼なことなんでしょうか。

荒川：そうですね。逆に自分がされたらすぐにわかりますから。ドイツ語を勉強して，ドイツに行って一生懸命ドイツ語を話しているのに英語で返ってくるとか日本語で返ってくるとすごく悲しくなりますよね。まさにそれをやろうとしているんじゃないかなということです。

本当に日本人の日本語の使い方って「ら抜き」とか漢字の制限とか敬語ということには異常に厳しいんですけれども，日本人だけで話している世界なんですよね。外に出て，対外日本語コミュニケーションの観点からは，そういうものよりももっと大きな波がこれからくるんじゃないかと思います。

記者：先生はこの本の前には，『もしも…あなたが外国人に「日本語を教える」としたら』という，日本語を教える立場の視点からの本を書かれています。今回の本は，日常的に外国人と関わる一般の人の立場からです。なぜ一般の人の視点で書こうと思われたのでしょうか。

荒川：やはり，物を書いたり教えたりしていると，自分たちがやっていることの限界や，反対に役立つところが見えてきます。限界というのは，例えば僕らが日本語を教えて日本語ができる外国人がたくさん増えて，彼らが日本の社会に入っていってどういう扱いをされるか，気持ちよく過ごすことができるか。これらの保証はできないわけです。それが1つの限界です。では，それをどうしたら良いのかというと，僕らが接している外国人との接し方を少し変えれば，彼らが暮らしやすくなるかな…ということです。

僕らは，たとえばお客さんが来る前の日からお掃除をするように，人とのやり取りで，時に過度な親切心を持ちがちです。ましてや外国の方が来るとなるとその構えはすごく高く，強くなってしまうと思います。その過度な親切は，日本で

道に迷っている外国人がいると英語で話しかけるなど，外国語を話すという方法に表われます。しかし，自分の国で困っている人に，自分の国の言葉で話しかけないのは日本ぐらいだと思います。

日本人の過度な親切が悪いわけではありません。親切は親切なのですから，ちょっと工夫して「自分の言葉で，自分のできる範囲の親切でやってあげましょう」というのが書き手としてのスタンスです。

記者：本のタイトルから語学の本というイメージをもちましたが，どちらかというとコミュニケーション法の本と感じました。過度に構えたり境界線を作るのでなく，どうしたら外国人とより良いコミュニケーションがとれるのでしょうか。

荒川：外国人に日本語で話しかけるというのは，ちょっと勇気がいることですよね。1回やってしまえば難しいことではなくなるのですが。その当たり前のことをやってみる。お金もかからないし，必要なのはちょっとの勇気だけです。

もし，そこで相手が日本語をしゃべれず，ずっと日本語で話しかけられる状況にあれば，その人は日本語を勉強しようという気になると思います。それは，彼らの学習の促しにもなりますし，日本人とのコミュニケーションの向上にもつながります。助けてあげるということでは，知らん顔するより英語で話しかけたほうがいい場合もあるかもしれません。でも日本語を使えば，相手がどこの国の人でも，言葉を選ばずにすみます。

面白いのは，英語で話しかけようとはするけれど，中国語や韓国語で話しかけようとは考えが行かないことですね。ちょっと批判になってしまいますが，おそらく過度な英語崇拝，つまり英語のほうが上級な言葉と思っているところがあるからでしょうね。

記者：英語は国際語と思いますが。

荒川：たとえば，今，ヨーロッパで色々な国の人が共同で学校を作ろうとすると，そこの共通言語は英語になります。英語はたしかに世界の共通語です。教育でもビジネスでも，英語がグローバルな言語であるというのは間違いないのですが，その英語というのは，いわゆる英米の英語ではないのです。共通語としての英語だから内容が伴えば良いのであって，英米の英語の発音が何より良いという，日本で行われがちな英会話教育の意味ではありません。

ちょっと別の話になりますが，子どもの早期英語教育は教える側も習わせている子どもの親も，アメリカ英語のような発音ができることを期待している人が大半ではないでしょうか。しかし，国際語としての英語からすれば，それは意味が

ありません。

英語を学習することは戦後すぐから始めているので，もう60年ぐらいになります。この間に中学・高校，全国津々浦々，英語ネイティブスピーカーを配置して，月に1～2回は授業で外国人と相対できるようになったことは，まあまあ評価できることです。でもその一方でこの政策は，外国人を見たら英語でしゃべりかけよう，というメンタルな傾向を助長しているのではないか，と思います。

実際にはお隣の中国・韓国の人も来るわけですし，他にも英語ができない外国人は多くいます。

記者：私たちの生活の場には，中国・韓国の方たちが多くいます。そこでお互いがよくわからないカタコトの英語で話すより，こちら側がわかりやすい日本語を話して，相手側にもカタコトの日本語でいいから話してもらったほうが，より良いコミュニケーションがとれるということですか？

荒川：そうですね。それが一番真っ当な気がします。

記者：以前勤めていた会社に英語で電話をかけてきた人がいまして，私が日本語で話し始めても最後まで英語で通しました。私としては，「やっぱり英語ができないとダメか」とちょっとショックでした。このような場合も，日本語で通した方がよかったのでしょうか？

荒川：難しいところですね。たとえば，ある大手の自動車会社では社内では英語を使うことになっているそうです。英語を使うことになっていたら英語を使えばいいでしょうし，そのような取り決めはこれから多くなっていくのかもしれません。ご質問のケースでは，会社で，「この会社では何語を使う」ということを決めておかなかったということが，問題のありかではないかと思います。そんなことは今まで，ほとんどの日本の企業はさほど考えなかったと思うんですが，これからは考えなくてはいけないと問題です。企業としての言語のポリシーを定め，言語の選択に対して敏感になる必要が出てくると思います。

あと，今のお話とちょっと違うことで思ったのですけれども，日本人は日本語で育っているから日本語が母語ですね。だけれども，僕たちは，持って生まれた日本語というものを上手に磨いてきたかというと，あんまりしていないかなという気はします。

フランスにおける学校のフランス語の授業とか，アメリカの学校での英語の授業は，文学を講読したり，読書感想文を書いたりはしません。むしろ，プレゼンテーションの仕方，報告書の書き方，つまりことばを分かりやすく伝えるために

はどうするかという，ことばのトレーニング，母語の磨き上げということをやっています。でも，日本の国語教育はそれはしていない。一方，英語の方は会話一辺倒になってしまっている。肝心の日本語を相手に対して分かりやすくするとか，論理立てて話すとか，段落というのはどういう意図で成立しているとか，そういうトレーニングを国語でやらないのは大きな問題です。

ただ，国語の先生というのは，近代文学をやった人とか古典をやった人が教壇に立ちますから。日本語という言葉を道具と捉えて，それを磨くというのが今の教育のカリキュラムの中に全然ないのは当然ですね。

記者：そうすると，この本は，外国の言葉で話してきたり，外国から日本に来ている人にどう接したら良いかという側面もありながら，実は日本人に対して，日本人が日本語をどう考えるか，使うかということでもあると理解して良いですか？

荒川：そこまでのことは書いていないんですが，自分がそう思っていることは確かです。日本人の中にももちろん，日本語が上手な人・下手な人がいます。でもその基準はというと，漢検みたいに難しい漢字をいくつ知っているかというものが幅を利かせている。もっと良い日本語の鍛え方・トレーニングの仕方，そしてその達成を平易に示す基準が必要だと思います。

記者：留学生にきれいな日本語を話す人が多いのですが，その人が長い期間日本語を勉強しているかというとそうではなくて，日本に来る前に少し習ってきたとか日本に来てまだ数か月だと聞いてビックリします。そこで考えたのは，私たちは日本人で日本に住んでいて日本語をあたり前のように吸収していますけれども，きちっと習ってはいないなと思ったんです。

文字の読み方やこの文章をどう読むか，文学の解説などは習っていますけれども，日本語を話す，コミュニケーションを取るというようなこととしては習っていないので，むしろきちんと習ったよその国の人の方がきれいな言葉をしゃべるし，日本語も上手ということなんだろうなと思いました。

荒川：それは十分にあると思います。

1．キーワードをいくつか挙げてください。

正　解

外国人　　日本人　　（言語）学習　　日本語

良いコミュニケーション　言葉のトレーニング　母語の磨き上げ

2．荒川先生がこの本を書いた一番の目的はなんですか。

正　解

日本にいる外国人とより良いコミュニケーションを取るために，日本語で話すべきであると伝えること。また，外国人が日本語を学んでくれていることに感謝するべきで，差別したり逃げたりするのは良くないと伝えること。

3．なぜ，外国人に英語で話しかけるのは失礼なのでしょうか。

正　解

外国人は一生懸命日本語を勉強して，日本の人たちとたくさん日本語で話して上手になりたいと思っているのに，日本人は一生懸命英語で話そうとして，相手が思っていることが話せないから。

4．インタビューでは，荒川先生の著書『とりあえず日本語で』のほかに，もう１つ別の本も紹介しています。なんという書名ですか。また，それはどんな特徴のある本ですか。

正　解

『もしも…あなたが外国人に「日本語を教える」としたら』という本。今回の本と違って，日本語を教える立場の視点から書かれた本。

5．荒川先生は，どうしたら外国人とより良いコミュニケーションがとれると考えていますか。

正　解

勇気をもって日本語で話すこと。

五、本文の聴解２：細部の聞き取り

内容について理解を深めましょう。もう一度CDを聞いて，次の質問に答えてください。

１．ディクテーション

下線部の空欄を埋め，文章を完成させてください。

（1）やはり，物を書いたり教えたりしていると，自分たちがやっていることの限界や，反対に役立つところが見えてきます。限界というのは，例えば僕らが日本語を教えて日本語ができる外国人がたくさん増えて，彼らが日本の社会に入っていってどういう扱いをされるか，気持ちよく過ごすことができるか。これらの保証はできないわけです。それが１つの限界です。では，それをどうしたら良いのかというと，僕らが接している外国人との接し方を少し変えれば，彼らが暮らしやすくなるかな…ということです。

僕らは，たとえばお客さんが来る前の日からお掃除をするように，人とのやり取りで，時に過度な親切心を持ちがちです。ましてや外国の方が来るとなるとその構えはすごく高く，強くなってしまうと思います。その過度な親切は，日本で道に迷っている外国人がいると英語で話しかけるなど，外国語を話すという方法に表われます。しかし，自分の国で困っている人に，自分の国の言葉で話しかけないのは日本ぐらいだと思います。

日本人の過度な親切が悪いわけではありません。親切は親切なのですから，ちょっと工夫して「自分の言葉で，自分のできる範囲の親切でやってあげましょう」というのが書き手としてのスタンスです。

（2）難しいところですね。たとえば，ある大手の自動車会社では社内では英語を使うことになっているそうです。英語を使うことになっていたら英語を使えばいいでしょうし，そのような取り決めはこれから多くなっていくのかもしれません。ご質問のケースでは，会社で，「この会社では何語を使う」ということを決めておかなかったということが，問題のありかではないかと思います。そんな

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com